2026 年 3 月 11 日

株式会社ウィル

住まいの契約を社会貢献につなげる「契約募金」

不動産取引一件ごとに、介助犬※ の育成・普及のために寄付

不動産・リフォーム・広告制作・コンサルティング事業を手がける株式会社ウィル（代表取締役社長 田中真次）は、独自の「契約募金」制度に基づき、2025 年分として介助犬の育成・普及のために下表の通り 1,924,000 円を寄付いたしますのでお知らせします。

※介助犬とは、肢体不自由者の手足となり、日常生活における動作の補助するために訓練された犬です。
盲導犬、聴導犬、介助犬を総称して「身体障害者補助犬（補助犬）」と言います。

寄付先	寄付額	贈呈日
介助犬支援のきっかけとなった 社会福祉法人日本介助犬協会	516,000 円	2026年3月17日、目録を贈呈予定
本社所在地 兵庫県の 特定非営利活動法人兵庫介助犬協会	1,167,000 円	2026年4月4日、当社新入社員研修のCSR研修時に目録を贈呈予定
支援のきっかけとなった介助犬シンシアの名を冠した「シンシア基金」	241,000 円	
合計	1,924,000 円	

【当社独自の契約募金の仕組みと流れ】

「契約募金」は、不動産取引一件ごとに物件種別に応じた一定額（1,000 円または 10,000 円）を寄付する当社独自の募金制度です。この制度は 2010 年に開始し、これまでの寄付金累計は 22,514,000 円に達しました。

①当社でご成約

②当社売上より寄付 ※寄付金は一年に一度まとめて贈呈

自社分譲物件の場合

売買仲介の場合

ただ寄付金を送金するのではなく、社員の頑張りや思いを乗せて目録を手渡しし、さらに介助犬への理解を深めます。

③贈呈式・啓蒙活動

2025 年 3 月、愛知県長久手市の介助犬総合訓練センターを訪問し、寄付金を贈呈しました。日本介助犬協会理事長より介助犬の現状や新たな試みの説明も受け、介助犬への理解を深めました。

2025 年 4 月、新入社員研修の中で、自社の社会貢献活動を学ぶことと併せて寄付金の贈呈式を行いました。新入社員の代表者から介助犬関係者へ寄付金の目録を贈呈（写真左）。また、介助犬の仕事も被介助者となって体験しました（写真右）。

【寄付金の贈呈について】

当社では、自社の社会貢献活動への理解を深めることを目的に、社員が集う場にて契約募金贈呈式を実施してまいりました。2026 年は以下の日程で実施いたします。

＜中部エリア＞

◆日時：2026 年 3 月 17 日(火)13 時～

◆場所：介助犬総合訓練センター「シンシアの丘」
愛知県長久手市福井 1590-51

◆内容：当社社員が施設を訪問し、寄付金を贈呈いたします。また、犬舎や訓練室をはじめとする施設内や PR 犬によるデモンストレーションを見学することで、介助犬についての理解を深めます。

※契約募金のうち、名古屋市内の６営業所の売上相当分を、愛知県長久手市にて介助犬総合訓練センター「シンシアの丘」を運営する日本介助犬協会へ寄付いたします。社員にとってより身近な施設に寄付をすることで、「自分たちの頑張りが役立っている」という貢献実感を持ち、自社の社会貢献活動への参画意識が高まると考えています。

↑介助犬訓練センターを見学する
当社管理職(2025 年 3 月 25 日)

＜関西エリア＞

◆日時：2026 年 4 月 4 日(土)11 時～ (予定)

◆場所：アヤハレークサイドホテル 滋賀県大津市におの浜 3 - 2 -25

◆内容：新入社員研修の一環として、介助犬関係者を招いて寄付金贈呈式を行います。また、介助犬への理解を深めるセミナーや PR 犬によるデモンストレーション、介助犬に指示を出す体験会も行います。

※企業内における社会貢献活動は、どこかの部署の誰かがやっている活動という認識になりがちです。この新入社員研修で自社が行っている活動を知り、顧客や取引先をはじめ多くの人に話すことができるようになってほしいと考えています。

↑介助犬の仕事を体感する新入社員
（2025 年 4 月 4 日 ）

【介助犬を支援する理由】

創業 10 年目の 2003 年、当社の創業者が介助犬の誕生を扱ったテレビドラマに出逢いました。創業の地である宝塚を舞台としたドラマには、私たちの日常にある風景が映し出され、そこで頑張る主人公(現在、日本介助犬使用者の会会長 木村佳友氏がモデル) と自分たちとが重なり共感を覚え、介助犬支援活動を始めました。以来、支援のきっかけとなったドラマを視聴、全拠点に募金箱を設置、不動産の広告に介助犬のイラストを掲載、チャリティイベントの開催、寄付型自動販売機の設置など、様々な方法で支援を行ってきました。当社のウェブサイトには、介助犬ページを設け、介助犬を詳しく紹介しています。

https://www.wills.co.jp/corp/service_dog/

介助犬との出会いで人生が変わった
木村佳友さんは、奥様の美智子さんと共に介助犬の育成・普及に尽力し続ける。
四代目介助犬エクラ、当社担当者と共に。
（2025 年 4 月 4 日 ）

【担当者のコメント】

「介助犬に出会って人生が変わった」という方のお話を聞く度に、介助犬の認知度をあげることと、介助犬の育成・普及の重要性を実感します。今後も様々な形で啓蒙活動を続けていこうと考えています。

お問い合わせ

株式会社ウィル
URL http://www.wills.co.jp

名古屋本社：愛知県名古屋市中区錦3-15-9 エフジー久屋ビル4階
本社：兵庫県宝塚市逆瀬川 1-14-39　Email yoko.okada@wills.co.jp
広報室 岡田　TEL 0797-74-7268 または、080-5811-1328

＜会社概要＞●創業／1993年●資本金／322,237,850円 ●社員数／370 名 ●株式上場／スタンダード：3241●事業内容／○流通事業○リフォーム・リノベーション事業○家具事業○開発分譲事業○賃貸事業○受託販売事業○不動産取引派生事業（ファイナンシャルプランニング業務、紹介業務など）○その他の事業（広告代理業務、コンサルティング業務）

ご参考資料

【介助犬の現状】

現在、実働する介助犬は全国で 56 頭（盲導犬は 768 頭）

年間の育成頭数は、わずか10頭前後に留まり、実働頭数は2019年度以降、60頭前後で横ばいの状況が続く。

＜実働数の推移＞

▲特定非営利活動法人 日本補助犬情報センターウェブサイトより

＜ご参考数値＞
盲導犬の実働数：768 頭（2025/3/31 日本盲人社会福祉施設協議会調べ）
聴導犬の実働数：52 頭（2025/10/1 厚生労働省調べ）

＜地域別の実働数＞ 2025.10.1現在

介助犬が実働しているのは22都府県

北海道 0	
東北 3	岩手 1、宮城 1、秋田 1
関東 27	東京 13、神奈川 7、千葉 3、埼玉 2、群馬 1、茨城 1
甲信越 0	
北陸 0	
東海 5	愛知 3、静岡 1、岐阜 1
近畿 14	大阪 6、兵庫 4、京都 2、奈良 1、滋賀 1
中国 3	岡山 2、広島 1
四国 2	徳島 1、愛媛 1
九州 2	福岡 2

▲特定非営利活動法人 日本補助犬情報センターウェブサイトより

約 75 年の歴史のある盲導犬と比べ、介助犬は約 30 年と歴史が浅く、認知度も低く頭数も少ない状況です。2025 年 10 月 1 日現在の実働頭数は、盲導犬の 768 頭に対して 56 頭。介助犬が実働しているのは、左下の表のように 22 都府県のみ。介助犬を見かける機会も少ないはずです。訓練事業者の規模も盲導犬に較べて脆弱な団体が多く、年間の育成頭数も盲導犬の百数十頭に対して十頭前後。そのような中、介助犬を必要とする人は約 15,000 人と言われ、育成が急がれます。

兵庫介助犬協会の施設内部の様子。専用の訓練施設を設けるための資金がないため、一戸建ての住宅を借り、各部屋を犬舎・訓練室・事務所などとして利用しています。

介助犬１頭の育成に、約 550 万円

例えば介助犬が 3 歳で実働し始めるとした場合、その育成費は、候補犬購入費、医療費やフード代、認定審査料金、人件費、施設費等で、約 550 万円（兵庫介助犬協会の場合の概算）。さらに、介助犬使用者への無償貸与中のフォローアップ、引退後のサポートまで合わせると、その総額は 800 万円にものぼります。

盲導犬は知っているけど、介助犬は知らなかった。認知度向上、育成・普及は急務

「盲導犬は知っているけど、介助犬は初めて聞いた」とよく言われます。介助犬は、肢体不自由者の手足となり、日常生活における動作の補助をするために訓練された犬です。「肢体不自由」とは、病気やケガなどにより、上肢・下肢・体幹の機能の一部、または全部に障害があるために、「立つ」「座る」「歩く」「食事」「着替え」「物の持ち運び」など、日常生活の中での動作が困難になった状態をいいます。この様々な障害の種類や程度に応じてオーダーメイドで育成されるのが介助犬です。「介助犬って何をするの？」と聞かれた時、その役割や必要性を一言で分かりやすく説明できないのは、このような理由によります。肢体不自由者自身も、「自分が介助犬の使用対象者となるか？」を判断できず、潜在的なニーズのままで終わるケースも少なくないようです。「介助犬に出会って人生が変わった！」という人がいる中、まだ、介助犬に出会えていない方々のためにも、認知度向上と育成・普及が急務と言えます。

↑日本介助犬協会会長は橋本久美子氏（写真左）、同副会長は安倍昭恵氏（写真右）が務める。（2025 年 3 月、同協会創設 30 周年式典にて）